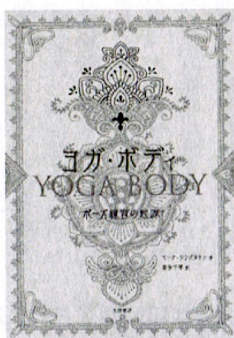


風野春樹
現代ヨガの
創られた伝統

マーク・シングルトン「ヨガ・ボディ
ポーズ練習の起源」喜多千草訳／大朝書店
装丁・北尾崇(HON DESIGN)



サイコドクターの日曜日

れたものだというし、ストレッチやリラクソスの要素は、一九三〇年代に欧米で流行していた女子体操から来たものだという。確かにヨガそのものはインドに古くから伝わるものだが、二〇世紀初頭には、苦行のよきなポーズを取るヨガはインドでも少数の人が行うだけで馬鹿にされていたのだ

そうだ。そして、最初にヨガを西洋に紹介したのはブラヴァツキー夫人やアレキスタ・クロウリーといったイギリスのオカルティストたち。当時は性の秘儀のような抜いだったようだ。それが一九二〇年代になつてインドが独立への道を模索する中で、強い肉体を持った国民を育成するため、オカルト的な要素を払拭し、西洋のボディビルや体操の要素も取り入れて創り上げられたのが、現在フィットネスとして世界中に広がっているヨガの原型だというのだ。とはいえ、だから現代のヨガは精神的な深みがなくてダメだと著者は言っているわけではない。確かに古典的なヨガと今のヨガは全然違うものだけど、実践している人々の情熱や精神性は、まぎれもなく本物。外部の要素を貪欲に取り入れて変化していくのも伝統の形というものなのだろう。そしてもうひとつ、この本が教えてくれるのは、ナシヨナリズムの高揚のために伝統が創られ利用されることもあるということ。日本の伝統を声高に主張する人たちには、ご用心を。

伝統ってなんだろう。日本の伝統だとか日本のころだとか言われれば、古くから受け継がれてきた習慣やしきたりだと思いがちだが、実際にはごく浅い歴史しかないこともしばしば。古くから伝わっていると思いついていただけだったりする。たとえば、「江戸しぐさ」は本当は江戸時代とは何の関係もない戦後の発明品だし、古くからのならわしのように思える初詣だって、鉄道の発達した明治中期ごろからの歴史しかない。伝統とは創られるものなのだ。

そしてインドのヨガもそうした創られた伝統のひとつ、と言えば驚く人もいるかもしれない。ヨガといえば古代からインドに伝わる修行の一種。それが創られたなんてあるわけがないと思われそうなのだが、現在世界中で広く行われている、ポーズをとるヨガが、実はインド古来のものではない、ということをおそらく検証したのがこの本なのである。たとえば、現在ではヨガの基本ポーズとされている「太陽礼拝」のポーズは、ボディビルダーが考案してヨガに取り入れられたものだというし、スト